

令和2年度	
-------	--

令和2年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」実績報告書

1 委託事業の内容

地域課題解決実践カリキュラムの開発・実証

2 事業名

介護福祉士を目指す外国人留学生のための「介護表現」読解力養成教育プログラム開発事業

3 分野・地域

分 野	教育社会福祉(介護福祉)
-----	--------------

地 域	愛媛県松山市、 兵庫県丹波篠山市
-----	---------------------

4 代表機関

■代表機関(受託法人)等

法人名	学校法人河原学園
代表者名	河原成紀
学校名	河原医療福祉専門学校
所在地	愛媛県松山市柳井町3丁目3-13

■事業責任者(事業全体の統括責任者)

職名	理事長
氏名	河原成紀
電話番号	089-943-5333
E-mail	seiki@kawahara.ac.jp

■事務担当者(文部科学省との連絡担当者)

職名	教務課長
氏名	本田浩司
電話番号	089-946-3388
E-mail	k-honda@kawahara.ac.jp

5 構成機関・構成員等

(1)教育機関

	名称	役割等	都道府県名
1	学校法人 河原学園 河原医療福祉専門学校	管理・運営・全般	愛媛県
2	学校法人 秋葉学園	開発・実証	千葉県
3	学校法人 こおりやま東都学園	開発・実証	福島県
4	学校法人 清永学園	開発・実証	石川県
5	学校法人 東京 YMCA 学院	開発・実証	東京都
6	学校法人 コア学園	開発・実証	北海道
7	倉敷外語学院	開発・実証	岡山県
8	社会福祉法人 ウエルライフ 篠山学園	開発・実証	兵庫県
9	静岡理工科大学専門学校事業室	開発・実証	静岡県
10	今治明德短期大学	開発・実証・評価	愛媛県
11	聖カタリナ大学	開発・実証・評価	愛媛県

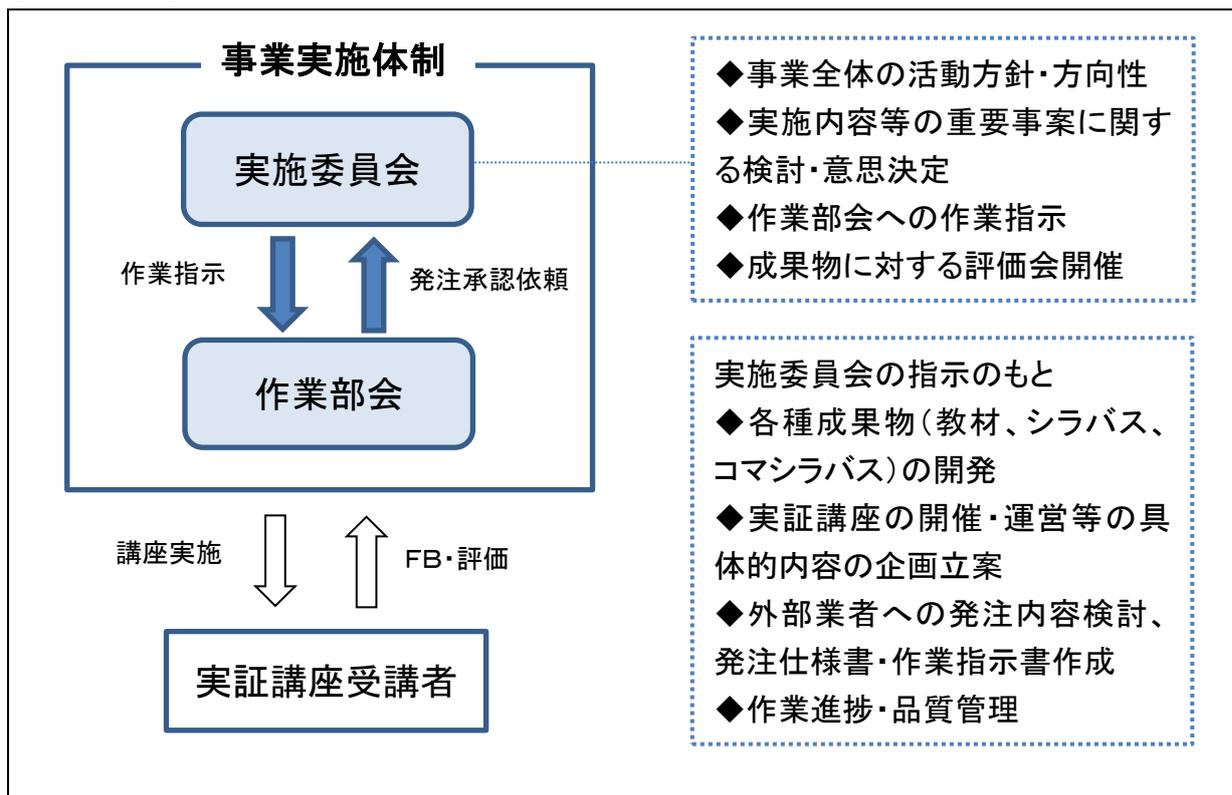
(2)企業・団体

	名称	役割等	都道府県名
1	社会福祉法人砥部寿会 特別養護老人ホーム 砥部オレンジ荘施設長	助言・評価	愛媛県
2	社会福祉法人紅梅会 特別養護老人ホーム 梅本の里総括施設長	助言・評価	愛媛県
3	社会福祉法人愛隣園 特別養護老人ホームガリラヤ荘施設長	助言・評価	愛媛県
4	社会福祉法人慈光会味酒ていれぎ荘施設長	助言・評価	愛媛県
5	社会福祉法人泰斗福祉会かなさんどう主任	助言・評価	愛媛県
6	愛媛県介護福祉士会会長	助言・評価	愛媛県
7	愛媛県社会福祉協議会 福祉人材部 人材研修課課長	助言・評価	愛媛県

(3)行政機関

	名称	役割等	都道府県名
1	愛媛県保健福祉部 社会福祉医療局 保健福祉課課長	助言・評価	愛媛県

(4) 事業の実施体制



(5) 各機関の役割・実際に得られた協力事項について

○教育機関

- ・介護福祉士候補の外国人留学生に関する教育ノウハウ提供
- ・アンケート調査項目作成
- ・カリキュラム作成、シラバス・コマシラバス作成
- ・実証講座への協力(参加する留学生の募集、会場提供)

○企業・団体

- ・介護福祉業界団体:介護福祉全体の視点で助言、評価
- ・社会福祉法人:介護福祉士を受け入れる機関として助言、評価

○行政機関

- ・本事業の実施にあたっての助言
- ・県内介護施設事業者への協力依頼
- ・本事業の成果物や実証講座が、地域課題の解決に結びつくか評価

(6)効果普及想定地域

①愛媛県松山市

- ・県内の高齢化率が32.6%と全国7番目に高く、且つ人口減少が1年に1万人と予測されており、介護人材の求人倍率は3.5倍の状況。
- ・松山市は愛媛県内の約4割の人口を抱えており、介護課題の影響も大きい。

②兵庫県丹波篠山市

- ・丹波篠山市の高齢化率は、2045年までに46.7%に達するという推計が出ており、超高齢化地域である。介護人材の求人倍率は全国平均を上回る。
- ・人口減少についても、17年連続マイナスとなっており、2009年からの10年間で-8.7%となっている。介護人材の確保は重要課題。

【2地域の類似性】

- ・地方都市が抱える人口減少の問題と同時に、老年人口の増加地域であり、介護人材に関する課題の深刻度が共通している。
- ・介護福祉学科の定員充足率の減少から、留学生募集を強化することで、地域の介護人材供給対策を行っている点でも共通している。

6 事業の内容等

(1)事業の趣旨・目的等について

i)事業の趣旨・目的

介護の現場における人手不足の状況は、喫緊の課題と指摘されてから久しい。愛媛県の人口減少は、1年に1万人減と推測されている状況下で、高齢化率は平成30年で32.6%の全国7番目、2045年は41.5%で10番目と高く、さらに介護人材の求人倍率は3.5倍と他職種と比較して高倍率となっており、この課題を深刻化させている。日本人の介護人材の採用が難しいことから、外国人留学生の受入れを拡大したいと考えている介護施設は少なくないが、日本人の介護福祉士の国家試験合格率が全体で70%を超えているのに対して、外国人留学生の合格率は、介護福祉教育コンソーシアムに参加している専門学校数校の今年度実績で27%未満となっているのが実態である。

その原因として考えられるのは、「介護表現」の読解力の弱さがあり、これを強化するための教育プログラムがないことがあげられる。現状、介護専門用語に関しては、外国人向け教材が整いつつあるが、課題は介護に関する背景や場面や動作の意味を踏まえた文章の読解力強化の対策である。本事業では、外国人留学生の「介護表現」読解力強化を目的とした教育プログラムを開発し、介護福祉士の合格率を、日本人受験者に準ずる水準まで改善することを目的とする。

ii) 学習ターゲット、目指すべき人材像

在留資格「介護」での就業を希望する外国人留学生を対象とし、介護分野の専門学校1年次生で日本語能力試験 N3 相当の日本語能力保持者をターゲットとする。「介護表現」読解力を修得することにより、介護福祉士国家試験に合格できる能力を身に付ける。在留資格「介護」により、介護の現場における即戦力となり、且つ長期に渡り介護の現場に就業できる人材の育成を目指す。

(2)開発した教育カリキュラム・プログラムの概要

i)名称

介護福祉士を目指す外国人留学生向け「介護表現」読解力養成教育プログラム

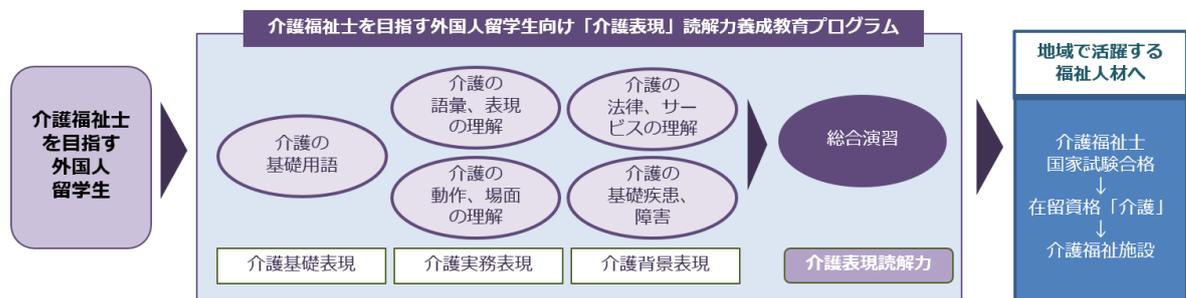
ii)内容

介護福祉士国家試験の問題は、一般的な日本語読解力だけでなく、「介護表現」の読解力、つまり、介護の知識を関連付けながら日本語の文章を読み解く力が求められる。留学生のための一般的な日本語学習テキストや、介護の専門用語単体の語意を説明する外国人のための介護用語集は存在するが、介護分野に関する日本語表現の総体である「介護表現」読解力のカリキュラムはない。そこで本事業では、介護福祉士国家試験の合格を目標に置きながら、介護の場面の理解や介護固有の動作について、日本語の表現を通して理解することを目指す「介護表現」読解力強化のカリキュラムを開発する。また、介護福祉士養成施設となっている専門学校が、指定カリキュラムの空き時間に組み込んで授業を行えるよう、構成や確認テスト等を作成する。最終的には総合演習において、事例を読み解く力が付き、国家試験に出題される問題文の内容を十全に理解する力を修得するカリキュラム構成とする。

項目	概要
名称	介護福祉士を目指す外国人留学生向け「介護表現」読解力養成教育プログラム
想定する受講者	介護福祉士を目指し、介護福祉士国家試験の受験を控えている外国人留学生。 国家試験対策講座を受講する前段階の、1年次、日本語能力 N3 相当を想定。
ポリシー	介護福祉士国家試験において、介護福祉士養成校の合格率が全体平均の 73.7%を上回る 83.7%と高水準であることから、日本人で介護知識の習得がされていれば合格圏内となることが推測される。そこで、外国人留学生に現在不足している、合格に必要な「介護表現」の読解力を引き上げることで、介護福祉士国家試験合格率を上げることを目指す。
目的	外国人留学生が介護福祉士国家試験に合格するために必要となる「介護表現」読解力を修得させる。 あわせて、介護の場面の理解や介護固有の動作について、日本語の表現を通して理解する力を修得させ、介護の現場で実践的にも能力を発揮しうる人材を育成する。
概要	介護福祉士国家試験合格に必要な要素として、介護専門用語単体の理解と、介護に関連する法令知識、介護実践における介護固有の動作や場面、介護に関連する医療の要素を日本語の表現を通して理解する力が挙げられる。介護福祉士国家試験の出題範囲に含まれる各領域の日本語表現を、専門用語単体に関連する「介護基礎表現」、介護実践における動作や場面に関連する「介護実務表現」、医療や法令知識に関連す

	<p>る「介護背景表現」の三種類の表現体系(「介護表現」体系)に再編成し、受講者が体系的に学べる構成とする。問題の解説、演習を繰り返すことので「介護表現」読解力を修得する。</p>
科目構成	<ul style="list-style-type: none"> ・介護の基礎用語 ・介護の場面で頻りに使用される語彙や表現の理解 ・介護実践の動作、場面の理解 ・介護の疾患、障害(基本) ・介護に関する法律、サービスを理解するための日本語 ・総合演習

<本教育プログラムの全体像>



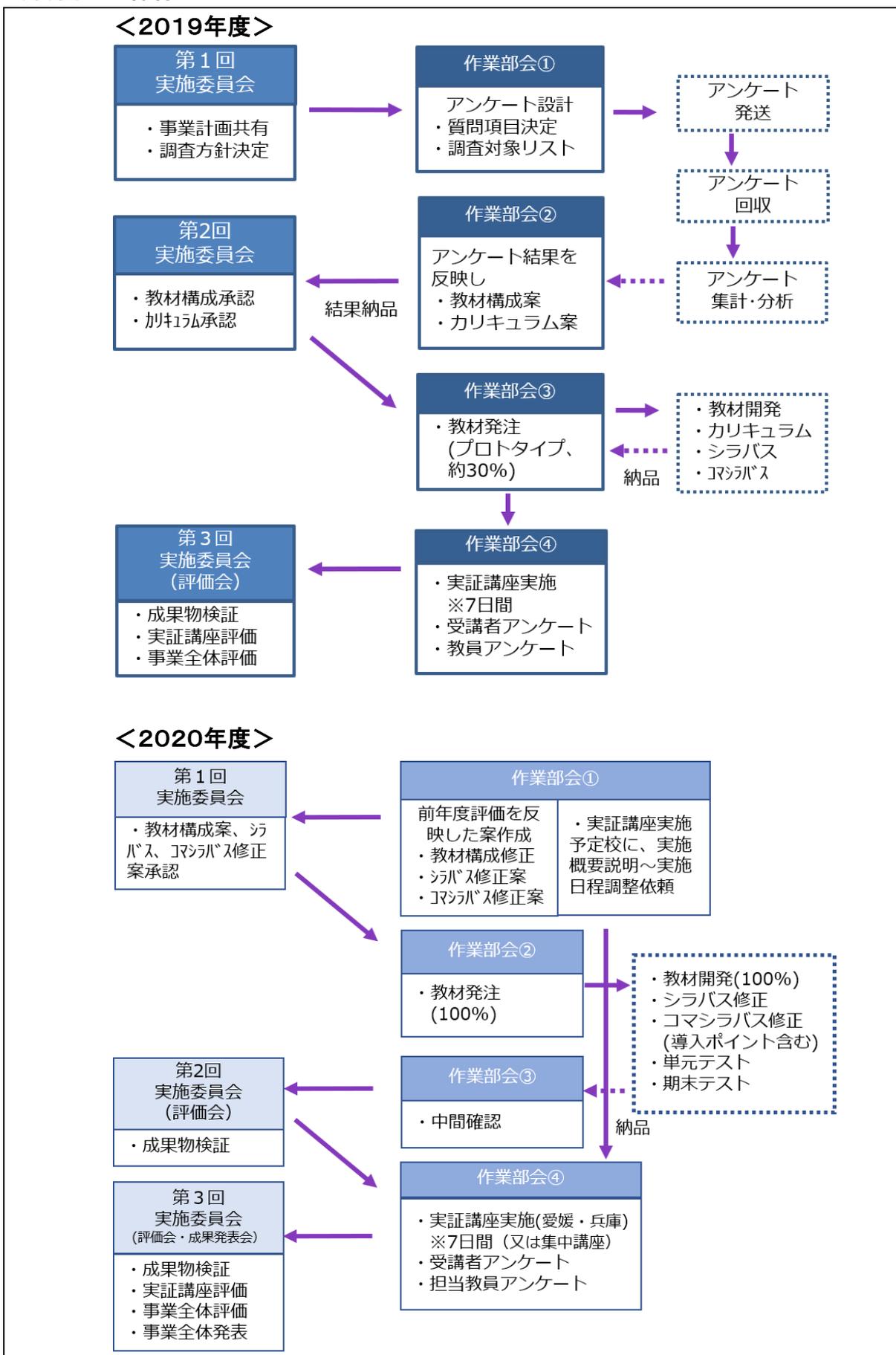
<想定するカリキュラム(3領域6単元)>

領域	単元	テーマ	コマ数	
介護基礎表現	介護の基礎用語	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎用語を使って、ヒト(専門職)とヒト(被介護者)の動きや場面の文章を日本語で理解し書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎用語を使って、介護福祉現場の説明の文章を日本語で理解し書く。 	16
	介護の場面で頻りに使用される語彙や表現の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・関心のある介護福祉のヒト、モノなどについて日本語の表現を通して理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護の場面図表などの説明や記録の文章を日本語の表現を通して理解する。 	12
	介護実践の動作、場面の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・介護の現場で起きる様々な場面について、日本語の表現を通して理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・被介護者と介護者の間で起こる介護固有の動作について、日本語の表現を通して理解する。 	10

介護背景表現	介護の基礎疾患、障害	・介護における基礎疾患(認知症、脳血管性疾患等)を日本語で理解する。	・障害(内部障害・外部障害等)の名称を日本語で理解する。	・基礎疾患、障害からくる特徴をそれぞれ日本語で理解する。	12
	介護に関する法律、サービスを理解するための日本語	・介護に関する法律を日本語の表現を通して理解する。	・介護に関するサービスを日本語の表現を通して理解する。	・法律、サービスの特徴をそれぞれ日本語で理解する。	7
	まとめ、総合演習	・事例検討をグループ学習から個別学習に落とし込み、総合的に内容の理解をする。	・1年間で修得した介護基礎表現、介護実務表現、介護背景表現を集約した総合問題を理解する。	・介護福祉士国家試験の過去問題の総合問題を読み解き理解する。	3
コマ数合計					60

(3) 具体的な取組

i) 計画の全体像



ii)今年度の具体的活動

○実施事項

1. 会議開催

※詳細は後述

	8月	9月	12月	2月	実施回数
実施委員会	○		○	○	3回
作業部会		○	○	○○	4回

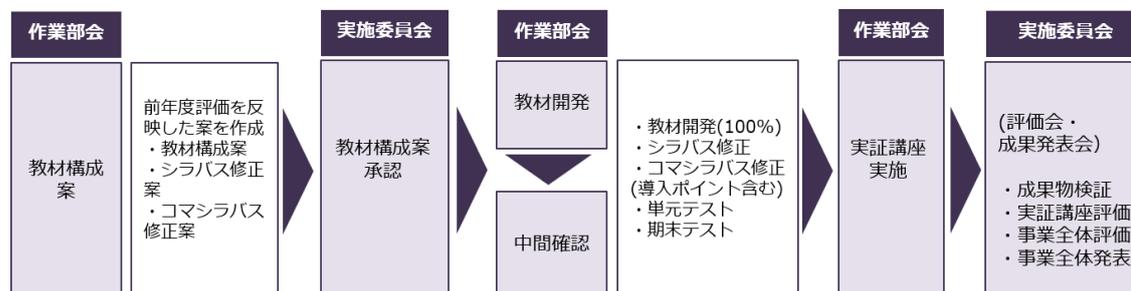
2. プログラム開発

前年度のプロトタイプ教材及び実証講座の評価を元に、3領域(「介護基礎表現」「介護実務表現」「介護背景表現」)からなるカリキュラムおよび教材(シラバス、コマシラバス、単元テスト、期末テスト)を開発する。

3. 実証

2で開発した教材を使用して、実証講座を実施する。

受講結果と受講者、教員、実証講座の見学者(企業・団体・行政機関)等のアンケートにより、評価データを収集し、本事業全体評価を行う。



○事業を推進する上で設置した会議

会議名 ①	事業実施委員会		
目的・ 役割	本事業の全体内容を決定する。 あわせて事業の進捗管理と、成果を評価するための評価会(3回目)を行う。		
検討の 具体的 内容	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業の全体内容の決定 ・教材構成、カリキュラムの承認 ・事業の進捗管理 ・成果物検証、実証講座評価、全体評価 他 		
委員数	23人	開催回数	3回

事業実施委員会の構成員(委員)

	氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
1	秋葉英一	学校法人秋葉学園理事長	開発・実証	千葉県
2	大本研二	学校法人こおりやま東都学園理事長	開発・実証	福島県
3	越中谷薫	学校法人清永学園理事長	開発・実証	石川県
4	八尾 勝	学校法人東京 YMCA 学院相談役	開発・実証	東京都
5	神山恵美子	学校法人コア学園副理事長	開発・実証	北海道
6	小村美香	倉敷外語学院副主任	開発・実証	岡山県
7	城田 忠	社会福祉法人 ウエルライフ 篠山学園専任教員	開発・実証	兵庫県
8	横山 純	学校法人静岡理工科大学 専門 学校事業室次長	助言・評価	静岡県
9	菅原哲雄	社会福祉法人砥部寿会 特別養 護老人ホーム 砥部オレンジ荘 施設長	助言・評価	愛媛県
10	杉本太一	社会福祉法人紅梅会 特別養護 老人ホーム 梅本の里 総括施 設長	助言・評価	愛媛県
11	高橋雅志	社会福祉法人愛隣園 特別養護 老人ホームガリラヤ荘施設長	助言・評価	愛媛県

12	窪田里美	社会福祉法人慈光会 味酒野ていれぎ荘施設長	助言・評価	愛媛県
13	荻山英治	社会福祉法人泰斗福社会 かなさんどう主任	助言・評価	愛媛県
14	井川義伸	愛媛県介護福祉士会 会長	助言・評価	愛媛県
15	藤井大輔	愛媛県保健福祉部 社会福祉医療局 保健福祉課 課長	助言・評価	愛媛県
16	八木俊幸	愛媛県社会福祉協議会 福祉人材部 外国人介護人材支援センター一長	助言・評価	愛媛県
17	河原成紀	学校法人河原学園理事長	管理・運営	愛媛県
18	越智節也	河原医療福祉専門学校校長	管理・運営	愛媛県
19	芦澤昌彦	学校法人河原学園教務部長	実証・評価	愛媛県
20	田中宏治	河原医療福祉専門学校事務長	運営・事務	愛媛県
21	宮田 幸	河原医療福祉専門学校介護福祉科主任	実証・評価	愛媛県
22	吉田 理絵	河原医療福祉専門学校介護福祉科留学生担当	実証・評価	愛媛県
23	本田浩司	河原医療福祉専門学校教務課長	管理・事務・実証	愛媛県

会議名 ②	作業部会		
目的・役割	事業計画に従い、実施委員会の指示のもと、調査、開発、実証講座を行う。		
検討の具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の評価を元にした教材構成案、カリキュラム案のまとめ ・教材発注、管理 ・実証講座準備、運営、アンケート実施、まとめ 		
委員数	11人	開催回数	4回

作業委員会の構成員(委員)

氏名		所属・職名	役割等	都道府県名
1	宮元預羽	今治明德短期大学講師	開発・実証・評価	愛媛県
2	小木曾真司	聖カタリナ大学講師	開発・実証・評価	愛媛県
3	高橋雅志	社会福祉法人愛隣園 特別養護老人ホームガリラヤ荘施設長	助言・評価	愛媛県
4	窪田里美	社会福祉法人慈光会味酒野ていれぎ荘施設長	助言・評価	愛媛県
5	荻山英治	社会福祉法人 泰斗福祉会かなさんどう主任	助言・評価	愛媛県
6	藤井大輔	愛媛県保健福祉部 社会福祉医療局 保健福祉課課長	助言・評価	愛媛県
7	八木俊幸	愛媛県社会福祉協議会 福祉人材部 外国人介護人材支援センター長	助言・評価	愛媛県
8	吉田理絵	河原医療福祉専門学校介護福祉科留学生担当	開発・実証	愛媛県
9	芦澤昌彦	学校法人河原学園教務部長	開発・実証・評価	愛媛県
10	宮田 幸	河原医療福祉専門学校介護福祉科主任	開発・実証・評価	愛媛県
11	本田浩司	河原医療福祉専門学校教務課長	管理・運営・事務	愛媛県

○開発に際して実施した実証講座の概要 ※検証結果については、下記検証項目に記載

実証講座の対象者	学校法人河原学園 河原医療福祉専門学校介護福祉科1年に在籍する外国人留学生
期間 (日数・コマ数)	1日間、1コマ
実施手法	今年度開発した教材を使用して、実証講座を実施する。
受講者数	4人（うち正規課程在学者4人）

iii)開発する教育カリキュラム・プログラムの検証

○検証方法、検証結果

■検証物

- ・「介護福祉士を目指す外国人留学生のための「介護表現」読解力養成」カリキュラム(初年度からの改定版)
- ・シラバス、コマシラバス(初年度からの改定版)
- ・教材(単元テスト、期末テストを含む)

■検証方法

実証講座受講者向け	実証講座実施クラス教員向け	実証講座見学者向け
確認テスト結果 受講者アンケート	教員アンケート	見学者アンケート(企業、教育機関など立場別)

※実証講座のアンケート項目は、前年度の結果を踏まえて実施委員会で検討し、各対象者から具体的な評価を引き出す内容にする。

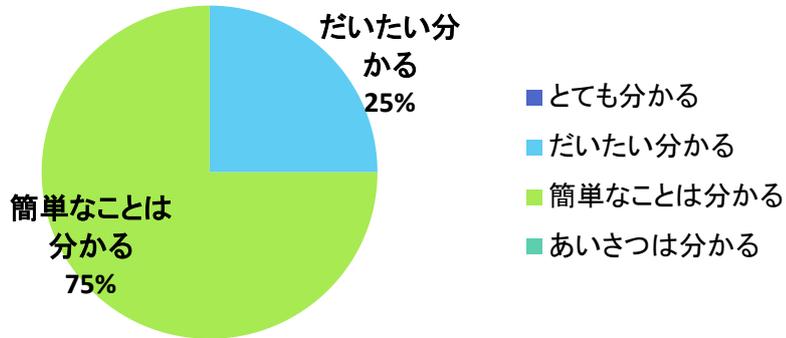
※実証講座の見学は、実施委員を中心に広く呼び掛ける。

■実施委員会(評価会)

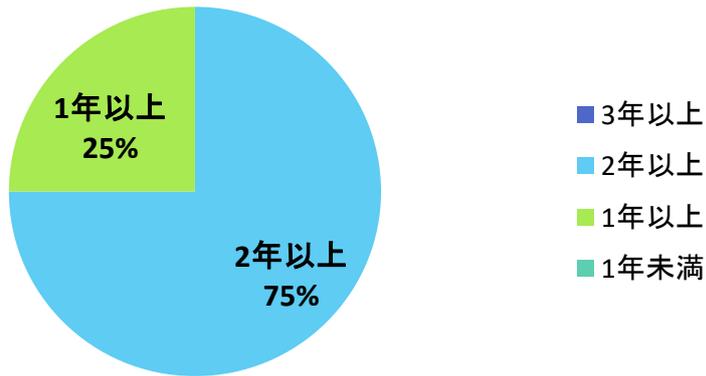
- ・成果物(シラバス、コマシラバス、教材)と、上記の受講者、教員、見学者による検証結果を委員会開催前に送付。
- ・各委員は、内容を確認したうえで委員会に臨む。
- ・成果物についての詳細の説明と、実証講座結果の説明を行ったのち、委員ごとに評価について意見を出す。
- ・委員となっている行政機関には、地域課題解決の観点で意見を出していただく。

<アンケート結果>

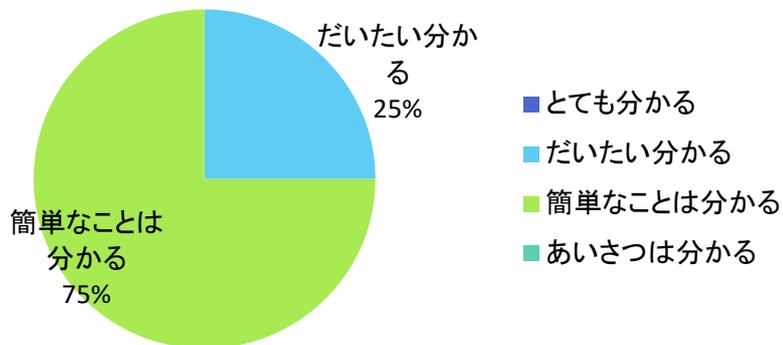
今、日本語がどれくらい分かりますか



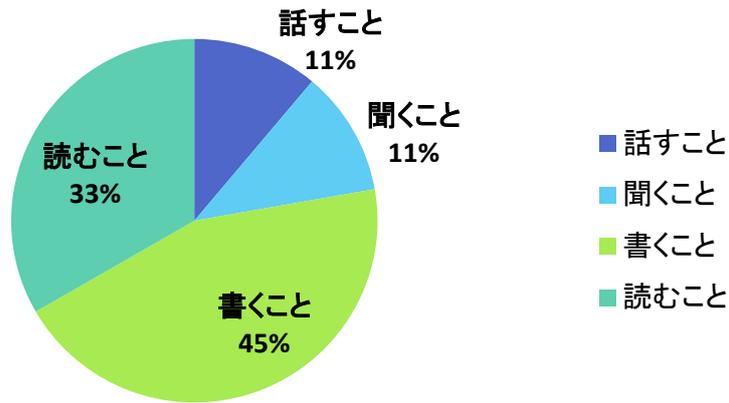
日本語の勉強を始めてどのくらいですか



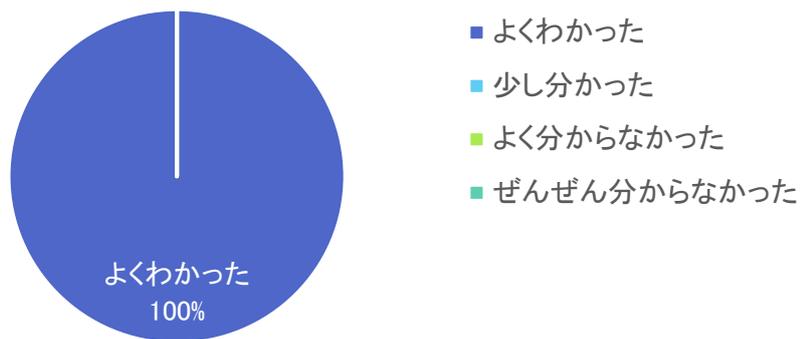
今、日本語がどれくらい分かりますか



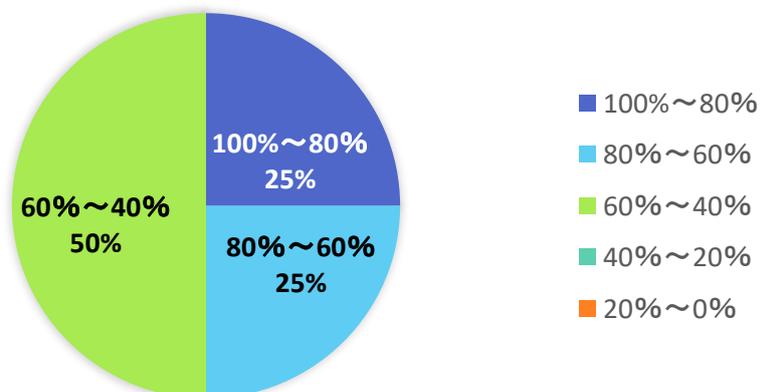
日本語で難しいのはどれですか (複数回答)



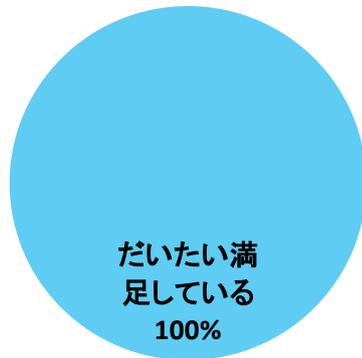
実習記録の書き方は、教えてもらって分かりましたか。



あなたは、この授業で習った内容を何パーセントくらい分かったと思いますか。

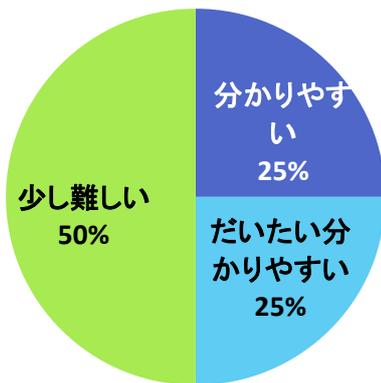


あなたは、この授業を受けて、どれくらい満足していますか。



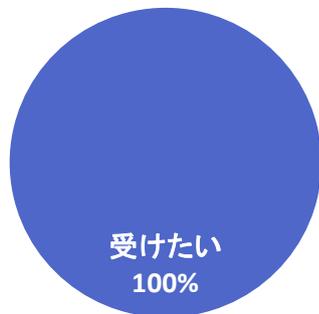
- とても満足している
- だいたい満足している
- あまり満足していない
- ぜんぜん満足していない

テキストの内容は、分かりやすかったですか。



- 分かりやすい
- だいたい分かりやすい
- 少し難しい
- とても難しい

これから、この授業を受けていきたいと思えますか



- 受けたい
- 時間があったら受けたい
- 受けたくない
- 分からない

<教員からの評価>

実習記録は、実際には書けていたが、細かいところは間違っている。このテキストによって振り返りができることがよかった。実習記録は、実際には書けているが、細かいところは間違っている。このテキストによって振り返りができることがよかった。日本語能力は、そこまで高くはないが、国家試験は日本人と同様に合格させていきたい。そのため、今後は介護福祉士を目指す留学生に、この講座を行うことによって、日本語力や読解力をつけていきたい。

<見学者からの評価>

・先生の話も聞きながら理解をしていた。演習では、自身の記録を取り出し、それをもとに振り返るのはとても良い。実際に実習を受け入れていたが、現場では記録を誤字脱字等の指導はするが、他のところ時間が無かった。今日の授業は実習記録の書き方に注意する内容で、それを要点にしているので、自身の記録と見比べながら、見直していくことができたのでよかった。相手に読んでもらうことが意識できるようになれば、日本語の習得にもなると思う。

・記録を振り返りながら、見直していくのはとても良いと思った。このような授業を学校でやるのが分かった。専門用語は、日本人でも分からないことが多い中、授業で専門用語を使わせていくことが学びになっている。今日の授業も、誤字脱字から始まり、専門用語に直していく活動へとつながっていくものと分かった。

<行政機関>

- 「介護表現」に的を絞り、介護にまつわる日本語表現の読解力向上を中心にテキストを編集するなど、外国人介護人材の資質向上における課題を的確に分析した上で、最も効果的なターゲットを設定して事業が進められている。
- テキストは、専門家の意見を十分に反映させながら、介護現場で想定される様々なシチュエーションを網羅するなど、日本人向けの介護テキストとしても通用する実践的な内容となっている。
- 今後とも、指導現場との意見交換を継続することで、このテキストを使用する指導者のスキルアップと、テキストの更なるブラッシュアップにつながることを期待したい。

<第三者>

単元の振り返りの中でどのように説明したらいいかを、書いた入り話したりしながら確認していくというのは素晴らしいと思った。聞く、話す、書く、読むで何が苦手か探りながら進めていけるように網羅されている。グループワークを通して網羅されているので、ぜひ利用させてもらいたい。

(4) 事業実施に伴うアウトプット(成果物)

本事業のアウトプットは、下記の4点とする。

- 介護福祉士を目指す外国人留学生のための「介護表現」読解力養成 カリキュラム (3領域 6単元を想定)

【介護基礎表現】

- ・介護の基礎用語

【介護実務表現】

- ・介護実践の動作、場面の理解
- ・介護の場面で頻繁に使用される語彙や表現の理解

【介護背景表現】

- ・介護の基礎疾患、障害
- ・介護に関する法律、サービスを理解するための日本語
- ・まとめ、総合演習

- シラバス

- コマシラバス(60コマ)

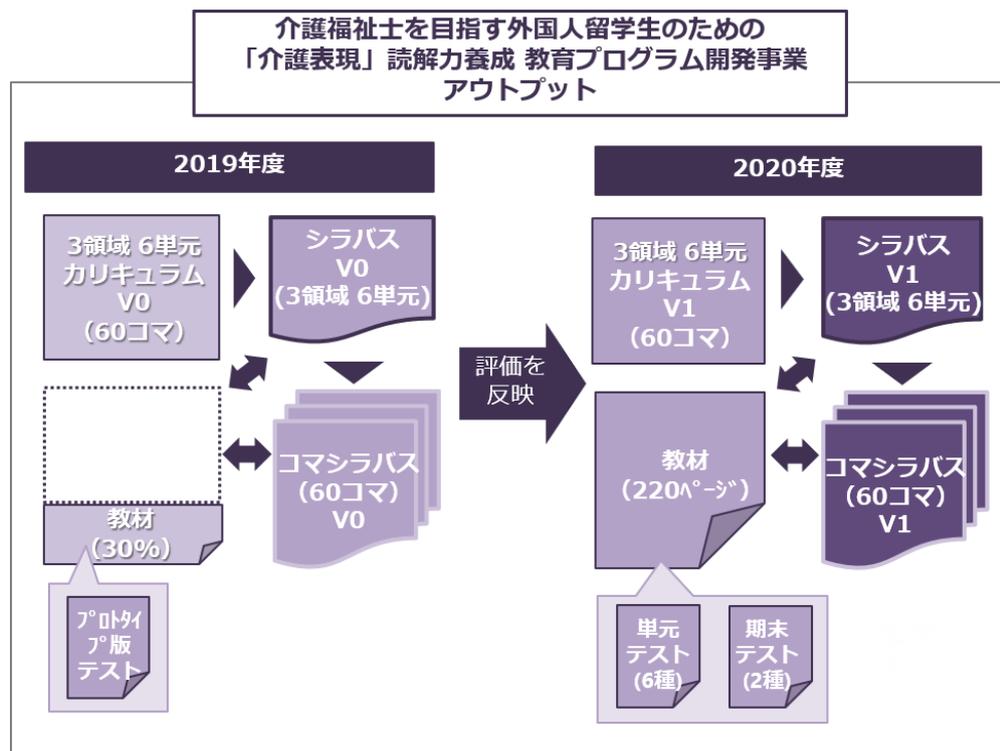
- ・導入ポイントを含む

- 教材

(334 ページ:2~3 ページ/コマ×60コマ)

※以下のテストを含む

- ・単元ごとの確認テスト(6種)
- ・期末テスト(2種)



(5)本事業終了後※の成果の活用方針・手法

<2021 年度>

■導入予定:介護福祉科 1 年次(河原医療福祉専門学校+1 校(仮))

■導入拡大に向けた取組み

- ・導入結果を協力教育機関に共有
- ・2021 年度または次年度以降の導入調整
(想定校)

専修学校香南学園、宮崎医療福祉カレッジ、こころ医療福祉専門学校、
成田国際福祉専門学校、若狭医療福祉専門学校 他

<2022 年度>

■新規導入:3~5校

■受講対象者の国家試験結果検証→最終評価として告知

<2023 年度>

■さらなる導入拡大促進

■実施校による情報共有

